



矢野 邦夫 先生

浜松医療センター

院長補佐 兼 感染症内科長 兼 臨床研修管理室長 兼 衛生管理室長

'81年 名古屋大学医学部卒業。名古屋第二赤十字病院、名古屋大学病院を経て、'89年 フレッドハッチンソン癌研究所、'93年 県西部浜松医療センター(2011年4月より「浜松医療センター」に病院名変更)。「96年 ワシントン州立大学感染症科エイズ臨床、エイズトレーニングセンター臨床研修修了。「97年 感染症内科長/衛生管理室長に就任。2011年4月より現職。

ホームページでも、公開しています。

メディコン CDCWatch

検索

小児のCOVID-19

18歳未満の小児のCOVID-19のほとんどは、無症候性または軽症である。そのため、入院を必要とするような小児の重症COVID-19についてはあまり知られていない。CDCが週報 (MMWR) にCOVID-19による小児の入院について詳細に報告しているので紹介する (1)。

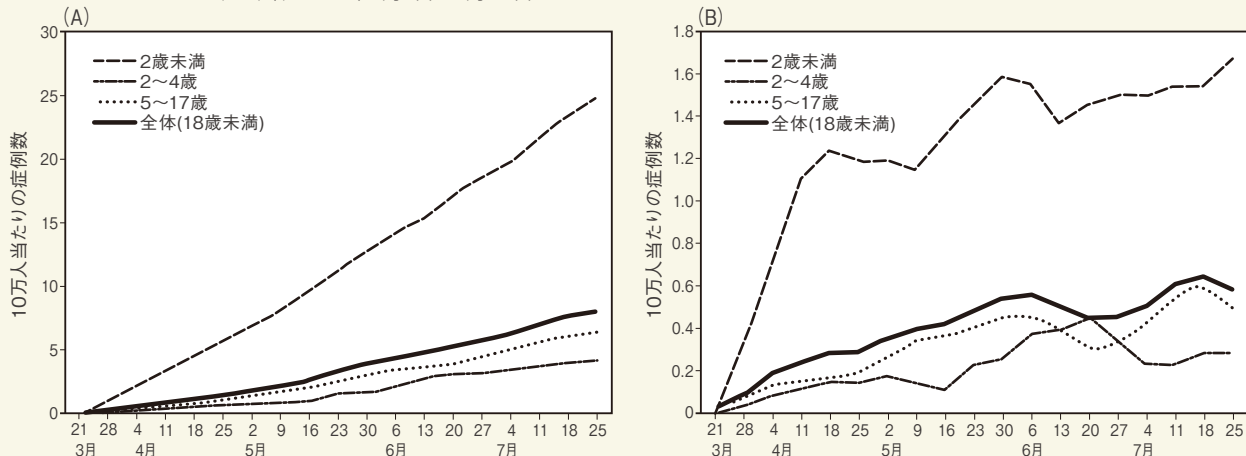
■ 調 査

2020年3月1日～7月25日の期間に、576人の小児のCOVID-19による入院がCOVID-NETに報告された。COVID-NETは、米国14州で検査確認されたCOVID-19に関するデータを収集している人口ベースのサーベイランスシステムである。

■ 累積入院率と毎週の入院率

- 576人の小児がCOVID-19で入院し、3か月未満の乳児が18.8%を占めていた。患者の年齢の中央値は8歳 (四分位範囲 [IQR] = 9か月～15歳) であり、292人 (50.7%) が男性であった。
- 18歳未満でのCOVID-19関連の累積入院率は、人口10万人あたり8.0であり、2歳未満 (24.8) で最も高く、2～4歳 (4.2) と5～17歳 (6.4) で低かった (図)。そして、小児の毎週の入院率は着実に増加した (10万人あたり0.1から0.4まで増加し、最高値は0.7であった)。

(図) 年齢別の18歳未満の小児の累積(A)および毎週(B)のCOVID-19関連の入院率
— COVID-NET, 14州, 2020年3月1日～7月25日



■基礎疾患

- 576人の小児のなかで基礎疾患に関する情報が得られた222人(38.5%)のうち、94人(42.3%)に1つ以上の基礎疾患があった。最も一般的な基礎疾患は肥満(37.8%)、慢性肺疾患(18.0%)、未熟児(妊娠37週未満、2歳未満についてのみに収集した)(15.4%)であった。肥満については、2歳以上の小児を対象に、CDC成長曲線に基づいて、年齢と性別の95パーセンタイル以上のボディーマスインデックス(kg/m²)として定義した。これは2歳未満には適用しなかった。

■症状

- 入院時の症状は年齢によって異なった。発熱または悪寒が最も一般的な症状であり(54%)、2歳未満(74.6%)で最も多くみられた。吐き気や嘔吐、腹痛、下痢などの消化器症状は、入院した小児全体の42%で報告されている。

■入院期間

- 診療録の再調査が、208人(36.1%)の小児で完了した。そして、入院期間の中央値は2.5日(IQR=1~5日)であった。69人(33.2%)の小児が中央値で2日間(IQR=1~5日)、ICUに入院した。

■胸部CTおよびレントゲン

- 入院中に胸部X線写真を撮った67人の小児のうち、44人(65.7%)のレントゲン線写真は、浸潤影またはコンソリデーションを示した。胸部CTの結果が得られた14人の小児のうち、すりガラス状陰影が10人で報告された。

■治療と転帰

- 治験による治療が12人(5.8%)の小児に行われ、年齢は5~17歳であった。9人にレムデシビルが投与された。
- 静脈注射用免疫グロブリンが208人中14人(6.7%)に投与された。
- 207人の小児のうち12人(5.8%)に侵襲的人工呼吸管理が実施された。
- 6月18日以降、小児多臓器系炎症性症候群(MIS-C: multisystem inflammatory syndrome in children)の退院時診断が体系的に収集された。診療録の再調査が完了した83人の小児のうち9人(10.8%)がMIS-Cの診断を受けた。
- 退院時転帰(退院時生存、入院中に死亡など)のある208人の小児のうち、複数の基礎疾患を持つ1人(0.5%)が入院中に死亡した。

■結果

2020年3月1日以降、COVID-NETは576人の小児のCOVID-19による入院を確認した。小児のCOVID-19による累積入院率は成人と比較して低いが、毎週の入院率はサーベイランス期間中に増加した。そして、42%の小児が1つまたは複数の基礎疾患を抱えており、肥満が最も多かった。

小児でも重症のCOVID-19を発症する可能性があり、3人に1人の小児がICUに入院した。しかし、MIS-CのようなCOVID-19関連の重症合併症で入院した小児でさえ、致死率は低かった。

SARS-CoV-2感染と他人への伝播のリスクを減らすために、小児は頻回に手を洗い、社会的距離を保つことが奨励される。そして、2歳以上の小児は、家族以外の人の周囲にいるときにはマスクを着用する必要がある。

[文献]

- (1) Kim L, et al. Hospitalization rates and characteristics of children aged <18 years hospitalized with laboratory-confirmed COVID-19 – COVID-NET, 14 States, March 1–July 25, 2020
<https://www.cdc.gov/mmwr/volumes/69/wr/pdfs/mm6932e3-H.pdf>

こちらにも公開しています。

メディコン CDCガイドライン 

製造販売業者

株式会社メディコン

本社 大阪市中央区平野町2丁目5-8 ☎0120-036-541

crbard.jp

